

日本原子力学会 第 124 回倫理委員会
議事録

1. 日 時：2021 年 5 月 10 日（月）9:00～11:55
2. 場 所：Web 会議
3. 出席者：大場委員長、福家副委員長、神谷幹事、伊藤委員、菅原委員、
高木委員、土田委員（委員 13 名中 7 名出席）、宇埜特別委員、藤澤特別委員
4. 資 料：
 - 倫 124-1 前回議事録（案）
 - 倫 124-2 2021 年春の年会倫理委員会セッション 結果概要
 - 倫 124-3-1 倫理委員会活動計画
 - 倫 124-3-2 倫理委員会役割分担表
 - 倫 124-3-3 日本原子力学会誌 記事提案書
 - 倫 124-4 2021 年秋の大会 企画セッションに係る企画・準備について（案）
 - 倫 124-5-1 次回倫理規程改定に向けた検討について
 - 倫 124-5-2 倫理規程改定案について
 - 倫 124-6 Zoom 打合せメモ
 - 倫 124-7-1 日本原子力産業協会「輸送貯蔵専門調査会」における倫理規程の紹介について
 - 倫 124-7-2 月刊技術士倫理コーナー執筆お願い
5. 議事概要：
 - (1) 前回議事録について

神谷幹事から資料 124-1 に基づき説明があり、一部誤記を修正したうえで、承認することとされた。

また、4 月 8 日の打合せ会における議論の状況について、以下のとおり紹介があった。

○2021 年春の年会企画セッションの結果概要について

 - ・企画セッションの議論を踏まえると、人間本来の有り様を考えて、倫理規程も考える必要があると感じた。
 - ・ルールによって人の行動を正しくすることに重きをおいているが、人間の有り様に立ち返って考える必要がある。
 - ・今回のような心理学的な視点からの学びも倫理においては重要。倫理委員会として、このようなことを考えて、議論していることを会員に広く伝えていくことが必要ではないか。例えばアトモスに定期的に記事投稿するなど。
 - ・今回の議論は、最近の東電の事案を考えていく際にも参考になる。
 - ・よい議論ができた企画セッションだったのではないか。フォローアップとして取り上げていくことがよいと思う。
 - ・今回の企画セッションの概要は、倫理委員会 HP に掲載することで検討を進めたい。

○活動計画および役割分担、20 年企画等について

- ・活動計画で、検討項目として研究機関の安全文化と金品授受問題については残している。今後、最近の東電事案を追加していくかどうか。
- ・本年秋の大会の企画セッションは、倫理規程改定を予定していることを踏まえて、実施していくことで検討する。役割分担表で、主担当：伊藤委員、副担当：金谷委員としている。
- ・役割分担表で、20年記事投稿は主担当：福家副委員長、副担当：大場委員長、次の倫理研究会は主担当：手柴委員、副担当：福家副委員長、2022年春の年会は主担当：嶋田委員、副担当：中村委員としている。

○次回倫理規程改定に向けた検討について

- ・No.3-9のご意見への対応は、安全文化にも悪い安全文化があることも追記してはどうか。
- ・No.6-2のご意見を踏まえると、改定案の「倫理、安全等に関わる問題」のように範囲を限定しない方がよいのではないかと感じる。しかし、広義の“安全”に“核セキュリティ”も含まれるとの整理は理解できるので、現案のままでもよいと思う。
- ・核セキュリティ文化に関しては、核物質防護に関わる業務を直接担当している者は特別なスキルや注意点があると思うが、直接の業務に携わっていない者の態度、行動としては、安全のための行動、よりよい組織文化のための行動で包絡されている、あるいは共通であると理解できるのではないかと感じる。したがって、手引等の全ての箇所で、安全と核セキュリティを併記する必要はないと考える。
- ・No.6-2のご意見に関連して、行動の手引7-1の改定案の「会員は、所属する組織において、倫理、安全等に関わる問題を、性、年齢、所属、職位、人種、思想・宗教等に関わることなく自由に話し合い、行動できる組織文化の醸成に努める。」は、「会員は、所属する組織が、倫理、安全等に関わる問題を、性、年齢、所属、職位、人種、思想・宗教等に関わることなく自由に話し合い、行動できる組織文化となるよう、その醸成に努める。」と修正した方がより分かりやすくなるのではないかと感じる。
- ・今回の議論を踏まえて、神谷幹事から、ご意見への対応案を修正し、まずはメールベースで委員会大の意見を求め、その際には、今回の意見募集を踏まえた修正が、倫理委員会運営細則第7条第4項にある「委員会が軽微な修正であると判断した」ものに該当するかも合わせて意見を求めていくとの説明があった。

○倫理に関わる問題について

- ・東京電力HDにおいて発生している核物質防護設備の機能の一部喪失事案等に係る事案に関して、委員会として議論を継続していきたい。
- ・東電の最近の事案は、priority settingの問題があると思う。再稼働を最優先課題として取り組む中で、相対的に優先度というか関心度が低くなっていたという問題ではないかと感じる。組織として目標をもって取り組んでいくときに、どうマネジメントしていくかということ。
- ・情報を更に収集して、深掘りした議論ができるとうよい。
- ・1F事故を起こした当事者として様々な取り組みをする中で、今回の事案は10年経って生じている。見えていなかったことが表に出てきているのではないかと感じる。議論を深めたい。
- ・本件について、倫理委員会として見解を發出していくのかどうかなど、どのように扱っていくか、次回委員会で議論したい。

○Zoom 打合せについて

- ・今後の Zoom 会議は、以下を確認した上で開催していく。
- ・Zoom であれ WG 等を立ち上げた活動であれ、委員会（会議）では時間のしほり等から自由に議論できない問題に対し、より自由な議論の場をもつことは委員会としても有益である。
- ・他方、参加しなかった委員が不快あるいは次の Zoom 会議や委員会への参加を躊躇する気持ちを持つようなことがないよう配慮すべき。
- ・Zoom の意義は、次回委員会で行うべき議論を明確にする等、委員会にその結果を提供することで委員会活動が活発になることである。
- ・今後は、Zoom 会議でどういった議論が行われたかの簡単な報告を、Zoom 会議後および委員会の場にて紹介できるようにする。日時や参加者情報は不要。
- ・Zoom 会議は、毎回テーマを決め、またゆるい意味での「倫理委員会が議論していることのマッピング」を意識して行い、上記報告により「見える化」し、議論や論点を「積み重ねて」いく。
- ・テーマにあわせて委員以外の方を呼ぶことも歓迎する（まずは過去の倫理委員会の活動の中で何らかの接触があった方など）。

○その他

- ・大場委員長から学会フェロー就任について発言があり、特に若手会員が元気になるような取組みにおいて、役割を果たしていきたいとの表明があった。

(2) 2021 年春の年会企画セッションの結果概要について

神谷幹事から資料 124-2 に基づき、総合討論の概要等について説明があった。

(3) 活動計画および役割分担、20 年企画等について

福家副委員長から資料 124-3-1～124-3-3 に基づき説明があった。

原子力学会誌への記事投稿企画については、編集委員会からの投稿計画のより一層の具体化等のコメントを踏まえて、担当の福家副委員長と大場委員長を中心に調整を進めていくこととした。主な議論は以下のとおり。

- ・外部よりは、まずは学会内からどう見えているのかという観点での企画にするのがよいのではないか。
- ・学会長には依頼した方がよいと考える。
- ・現委員長は、シリーズ記事の最後を締めくくるかたちがよいのではないか。

(4) 2021 年秋の大会企画セッションについて

伊藤委員から資料 124-4 に基づき説明があり、引き続きメールベースで調整を行い、提案書として学会事務局に提出していくこととした。主な議論は以下のとおり。

- ・現場のこととして、安全文化や核セキュリティ文化、リーダーシップに焦点を当てた議論ができることよいのではないか。
- ・根本原因分析をしても身の丈にあっていなかったり、経営は外部や規制側を見てしまってい

ることが間々あるのではないか。若手が変わろうとしていることと、経営の考えや報告でまとめられるものが同じなのかどうか。

- ・委員が聴きたいと思う企画になるように、率直に提案して欲しい。
- ・学会の場といっても組織を背負ってしまうので、当事者に近い方に参加を求めても、隔靴搔痒となり本質には迫れないのではないか。
- ・自由に議論するにしても、企画セッションの公開/非公開の扱いも気にしておく必要がある。
- ・人は間違いを起こすものだと思っても、自分（だけ）は間違えないという心理が働くので、不具合は生じてしまう。
- ・学会の役割としては、議論の場を提供することと、お互いに高め合うことがあると考えている。ポジティブな議論ができる場にしたい。そういう観点で、東電の現場の方が元気になれるメッセージが出ればよいと思う。タイトルに「東電」はあった方がよい。批判は承知で、しかし上手く議論できればよい。
- ・セッションテーマのサブタイトルにある「倫理規程は」は削除してよい。倫理規程が主役のセッションという趣旨ではないので。
- ・倫理規程の憲章7とその行動の手引に焦点を当てた議論にはしたい。現場を元気にできるか。リーダーシップに焦点を当てて、今後同じようなことが起きないようにするリーダーシップなど。

(5) 次回倫理規程改定に向けた検討について

資料 124-5-1 および 124-5-2 に基づき神谷幹事から説明があり、議論を行った。

本日の議論を踏まえた修正は委員長、副委員長および幹事に一任することとして、倫理規程改定案、意見募集で寄せられたご意見への対応および意見募集後の改定案の修正がいずれも軽微な修正であることについて、出席委員から異論はなく、了承された。理事会への上申に向けて、準備を進めていくこととした。

主な議論は以下のとおり。

- ・ご意見 No.3-9 への対応にある「…悪い土壌の安全文化もあり得ます…」との記載は、「安全文化」の捉え方によって誤解を生じるので、当該箇所の前段も含めて削除した方がよい。
- ・ご意見 No.6-2 への対応にある用語としての「安全」「安全性」に「核セキュリティ」まで含めて用いているとの件は、削除しても支障がないのではないか。また、「安全文化」と「核セキュリティ文化」の関係云々の件も、簡潔に継続して議論していくことのみを記載すればよいのではないか。
- ・憲章7の行動の手引の訴求が「安全」に偏っているのではないか、組織文化に関する手引きなので「安全」だけに関わるものではないのではないか。
- ・憲章7とその行動の手引は1F 事故後の倫理規程改定において盛り込まれたので、「安全」を中心に考えているのは自然なことであり、また、「安全」を特出ししてそこに価値をおくことは意味があるのだと考える。
- ・核セキュリティ文化の醸成に関しては、参考となる電中研報告がある。
- ・憲章7の行動の手引に核セキュリティを特出しして記載するのは違和感がある。
- ・前文に「…平和利用と安全確保の…」と「…安全確保と平和利用…」と混在しているので、

前者の順に統一する。

(6) その他

- ・原産協会輸送貯蔵専門調査会からの講演依頼について、資料 124-7-1 に基づき伊藤委員から紹介があり、現状、神谷幹事と大場委員長で対応していく方針であるとの説明があった。
- ・技術士会からの記事投稿について、資料 124-7-2 に基づき神谷幹事から紹介があり、倫理規程改定や最近の委員会活動、議論していることについても触れて作成していくとの紹介があった。投稿案ができた段階で委員会大で共有する。また、倫理規程改定に関しては、改定の会告ともに、原子力学会誌への投稿も検討していくとの説明があった。
- ・技術倫理協議会からの議長を担当できないかとの依頼があった件については、今回もお断りすることとしたとの紹介が大場委員長からあった。
 - 技術倫理協議会の議長は、現在、1年ごとに参加学会の持ち回りで担当している。現在の順番は、機械学会→土木学会→電子情報通信学会→電気学会→建築学会→技術士会→日本工学会教育協会。
 - 今回、原子力学会も議長を担当できないかとの依頼があった。2年前にも同様の依頼があり、原子力学会倫理委員会は事務局もなく、リソース的にも対応できないとしてお断りし、理解いただいた。
 - 今回も状況としては2年前と変わっておらず、同様にお断りした。
- ・Zoom 打合せの状況について、資料 124-6 に基づき大場委員長から紹介があった。秋の大会企画セッションの内容についても検討していく。
- ・大場委員長から、事例集の在庫に関して、以下の説明があった。
 - 在庫の保管は、学会事務局に加えて、従前の MHI 宇奈手氏に保管いただいていた分を長岡技大 大場委員長と日本原電 神谷幹事で分担して保管することとした。日立 GE 手柴委員（従前の三村氏より引継ぎ分）保管分はそのまま。
 - 在庫の有効活用については、学会としてはできるだけ販売して欲しいということだが、学生の学会賞受賞者への贈呈や意義ある献本など、引き続き検討していく。

6. 次 回：別途調整することとした。

以上